



外国人技能実習生のための 交通安全等説明会

5月25日(月)、大崎町中央公民館にて、大崎町社会福祉協議会主催の「外国人技能実習生のための交通安全等説明会」が開催されました。

当日は、ジャパンファーム・宮迫農産の2社で200名弱の技能実習生が参加しました。

現在大崎町には、600人を超える外国人が在住しており、大崎町の人口の約5%を占めています。

説明会では、志布志警察署の担当者が登壇し、自転車の交通安全、日常の防犯、ネット犯罪対策、防災について分かりやすく講話が行われ、各事業所の通訳者や、役場の国際交流員による同時通訳が実施され、活発な質疑応答が交わされ大いに盛り上がり、参加者の理解も高まった有意義な会となりました。

社会福祉協議会からは、「困りごとがあれば、ぜひ社会福祉協議会に相談してほしい」との案内がありました。

参加者からは、

「警察の方々が優しく説明してくださったので、楽しんで参加できました」

といった感想も寄せられました。



うなぎ放流

6月17日(水)、大崎町内水面種苗採捕組合、有明町シラスうなぎ種苗採捕組合、(株)鹿児島鰻、(株)斉藤商店の皆さんが、クロコと呼ばれる稚魚をメインに大小合わせて約3,640kg分のうなぎを放流しました。うなぎは、主に川や湖などの淡水域で成長し、海で産卵するこうかいゆうぎょ降河回遊魚と呼ばれる魚で、うなぎの帰巢本能を利用し、12月に解禁となるシラスウナギ漁での捕獲を増大させることを目的に毎年実施されています。



大崎町種子生産組合50周年！

5月27日(水)、大崎町種子生産組合の創立50周年を記念し作成されたポロシャツとジャンパーの贈呈式がおこなわれました。

現在、組合では14戸の生産者の皆さんが、町内29.3haの水田で早期水稻6品種の種子粃を栽培しています。

普段あまり目にする機会はありませんが、生産段階で厳しい基準をクリアした種子粃が、県内外に出荷され、各地の水稻生産を支えています。

本町でこういった誇らしい取組がおこなわれていることを、もっと多くの方に知っていただけたら嬉しいです。